



太閤記 22卷

小瀬甫庵著 洛陽 林甚右衛門 正保3 (1646) 刊
22冊 (合11冊) 〈請求記号 WB41-125〉

甫庵の『太閤記』は何回か版を重ねている。寛永2年(1625)の甫庵の自序、寛永3年の朝山意林庵の跋があるが、最初は無刊記で寛永11～14年の間に刊行されたとされる。ここに掲げたのは正保3年版で、大体は寛永の無刊記版に基づくが、記事が一部増補されている。当館本で注目されるのは、表紙に宗存版一切経の反古を使用していることである。冊によっては経文の字がはっきり見える。宗存版一切経は、慶長18年(1613)から寛永元年(1624)にかけての刊行とみられ、約20年後にその反古が使われたことになる。当時の出版状況がうかがえる稀少な資料として、平成12年準貴重書に指定された。印記「弘道館蔵書印」「東京書籍館」等。